

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和5年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	東京大学	整 理 番 号	1 9 0 5
プログラム名称	先端ビジネスロー国際卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	山本 隆司	プログラムコーディネーター	田村 善之
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種研究会での発表、公刊論文数は計画を上回って推移していることを始めとして、当初の諸目標をおおよそ達成し、参加学生の満足度も高いことから、順調にプログラムは進捗していると判断できる。 ・学内における法学政治学研究科以外の学生獲得については、共同授業や出張講義、共同シンポジウムの開催、教養課程における学部1～2年生に向けた法律の面白さを伝える授業展開等の取り組みが奏功しており、今後も安定的に多様な学生を確保することが期待される。また、法学政治学研究科以外の異なるバックグラウンドを持つ研究科の学生をさらに増大させ、交流会等コミュニティづくりも積極的に行っていただきたい。 ・先端ビジネスローの世界的な拠点づくりに向けて、ASLI や ATRIP の年次大会を東京大学で開催する等、積極的に国際的な発信の機会を創出している。 ・学生や連携先がアジアに偏っているという指摘については、ハーバード大学やストラスブル大学との連携、サマーセッションの機会提供などが進められている。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総長のもとに設置された「大学院教育検討会議」において、マネジメントレベルで現在進行中の3卓越大学院で生まれたグッド・プラクティスの共有、展開が積極的に行われている。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院教育全体の改革に向けた取り組みとしては現在取り組まれているマネジメントレベルの意見効果や情報共有にとどまらず、学生、教員を含めたそれぞれのレイヤで生まれた多様なグッド・プラクティスの中から共通的に展開可能なものを抽出し、他卓越大学院プログラムのもので合わせて全学の他学位プログラムに積極的に展開、共有、実装する仕組みを構築し、法学政治学研究科全体、さらには全学の大学院教育に成果展開、波及させていかれることを期待する。 ・本プログラムの取り組みが履修生や教員さらには国際的にも理解され、本プログラムが目指す国際研究拠点の実現に向けて、本プログラムが目指す、先端ビジネスローの研究、教育の最終目標（目指すもの）を明確かつ分かりやすく世界に向けて発信され、アジアにとどまらず欧米を含めた国際研究教育拠点として認知されるとともにその結果の一つとしての履修生の獲得にもつなげていただきたい。 ・依然として、留学生の国籍に偏りがある。法学政治学における言語の壁を乗り越え、先端ビジネスローの世界的拠点という目標達成に向けて、改めてアジアを越え世界規模での多様な国籍の学生の獲得を期待したい。先端ビジネスローにおける知のプロフェッショナルとして国際的に活躍できる人材の育成に期待したい。学位取得とまではいかないまでも、様々な研究報告会を開催するなど、学生の多様化の環境を創っていただきたい。特に本プログラムが共催した ATRIP や海外大学、企業との連 			

携の場を本プログラムの履修生を獲得するリクルーティングの場として活用することもご検討いただきたい。

- ・企業や法律事務所との研究連携をさらに強化していただきたい。リカレント教育の場としても機能していることから、当該学位プログラムを通じて教育研究の一層の拡充をお願いしたい。